





5246



目錄

- 一山
- 二嶺
- 三嵩
- 四根
- 五尾
- 六岳
- 七坂
- 八溪
- 十一冰室
- 十二炭竈
- 十三隈
- 十四瀨
- 十五湯
- 十六河
- 十七河原
- 十八岸
- 廿一橋
- 廿二渡
- 廿三瀨
- 廿四瀨
- 廿五池
- 廿六堤
- 廿七沼
- 廿八澤



早稻田大學
25.7.13
藤

九杣
十窓

十九渡
二十迫門

廿九井
三十水

初撰名所和歌抄出上

一山

石蔵山

山城

東石蔵山石蔵堂岩郡
西石蔵し御郡坐立三ヶ所

拾遺十
うみ見るま岩くく宗志代とえみいさつ_{讀人} 世さしはめ
新和
是月乃岩くく山の日くけまひもや神のみまをふらん _{讀人} 和資

編荷山

紀伊郡 後三条院時略てり幸あり

拾遺十九
滋の水如りても中けいあり山音のなつる馬一と思らん _{讀人} 後人
十味十八
いあ山三河此枝の幸ゆりてみはの角鴉神さみまなり _{讀人} 僧部
む系こ
ひ方をや海ふえやうる郭ふふもあとのこしあのみこ地る _{讀人} 保親



石村山

大和

百六十三 雲は白妙乃かき流雲いかに長あかじ

磐津山

後撰卷一

いとせ山登れそ水うらたのい人のいぬふ流てもしゆく

伊弉山

大和

延喜式後馬伊弉古麻膳伊弉
建保内裏御會伊弉

百六十四 山ふいふ海ふ秋の葉は心しみるしき跡か

河内

同十三

いもつりともふふくもまふいふ海ふ花ふえふ春は紅葉あけ

同十三又新古

春あけうらうらやえ伊弉山雲川がくもるもゆふこ色 後人
云

同十三

夕らまいひくしきぬいふ海山おえてそあぐいもつめ成り

同十三

いもふあふいひくしきぬいふ海山おえてそあぐいもつめ成り

去来見山

伊弉

同十三 わさそと子然いほの山をたみずんむしむしみよの國をゆかむ 石上
春

石山

近江 滋賀郡

新古 都あも人もあふんいひのこのあももむし秋の物れ月 長秋

伊香具山

百八

いづこ山あふいほすきふ花みきてそ春宿なるお花をさふ 金村

板倉山

河花十
いまこれ山景はりのいぬとみてたさぬ時代の程さうも
踊踊

石戸山

續古今七
ゆりみらいいそと此岩梯系とけてそ祈る事代乃たの 鐘光

右此世近代作者等為澄三ノ裁之仍か集珍等効之

仙言山

指建十
色にたつやたつ山の梯とてまうも世に祈るはむ 萬感

脩中 大嘗會主基方

金葉四
若ぬかはいやたつ山乃梯とてまうも冬あう花はさふかり 祈盤

伊吹山

近江 坂田郡日本紀年正月膽吹延喜式伊吹山
伊富岐建保田裏伊富 伊吹

續百七六
冬ぬく時は成ふたり志す伊吹の山若ぬりぬさうも 好忠

養濃 不破郡 伊富岐神社

指建十一
かくとたふえやこいふさけけをさけけとれ色枯るもさうも 實方

田情山

八雲抄并籠系抄并此山
法物抄田情山

古今八
まわりまはの山乃嶺ふかや松とまうも今ゆりあ世 行平

碧手山

陸奥

十歳十一
思へもいとそこの山を幸とて行やもそかん岩の埋木 顕補

四十一
人さぬぬ海乃川井みるもいとそこの山乃岩志下も 形昭

石巻山

回安不え

は 松山

山城 相楽郡

百十八

松山と松の海よりせ成いふは松の葉とてあけり

華山

宇治郡 信住郡 漢朝有同名 元華寺

百十九

華山といふは松の葉より花の葉とてあけり

羽買山

大和

添上郡

百二十

羽買山といふは松の葉より花の葉とてあけり

泊瀬山

大和

添上郡

百二十一

泊瀬山といふは松の葉より花の葉とてあけり

百二十二

泊瀬山といふは松の葉より花の葉とてあけり

百二十三

泊瀬山といふは松の葉より花の葉とてあけり

百二十四

泊瀬山といふは松の葉より花の葉とてあけり

百二十五

泊瀬山といふは松の葉より花の葉とてあけり

羽東山

攝津

新野郡

百二十六

羽東山といふは松の葉より花の葉とてあけり

に 丹生山

大和

吉野郡

百二十七

丹生山といふは松の葉より花の葉とてあけり

は 細川山

大和 吉野郡

百二十八

細川山といふは松の葉より花の葉とてあけり

常盤山

山城 葛城郡 山形

思ひあつと死すの山は都にけり 紅くあつてそは 後人

たゞいづる常盤山は 忠にけり 山をぬえしを 後人

紅葉の常盤山の 山をぬえしを 後人

赤みとくは 山をぬえしを 後人

秋くきいふと 山をぬえしを 後人

美秋をうぬ 山をぬえしを 後人

鳥羽山 丹波伊都郡

白鳥のこえ 山をぬえしを 後人

泊瀬山 大和 八雲は 山をぬえしを 後人

泊瀬山 山をぬえしを 後人

鳥籠山 近江 大津郡

大上れとこれ山なる 山をぬえしを 後人

書ふ山なる 山をぬえしを 後人

あふ山なる 山をぬえしを 後人

千世徳山 丹波 常田郡 又知郡

千世徳山 山をぬえしを 後人

千載二十

ちとせ山神のせうをの柳え乃さりえ海より来たぬらふ光花

を小塩山

山城 山神 山神 大東郡

長和の世のついでに記す

三條院御時大嘗會の御禊有とてのは雪の

ふりゆきふ大東にもみつけ小將井尼

の神よりけり

長和二十

世のついでに記す

かき

ちとせ山神のせうをの柳え乃さりえ海より来たぬらふ光花

新百十九

あせりてさる心てあけおきめを神をさるの山より

小塩山

葛野郡 山神

古く

秋の月夜さる心てあけおきめを神をさるの山より

長和二十

いふせん小塩の心のついでに記す

日八

まじりてあせりてさる心てあけおきめを神をさるの山より

今百十九

小塩の山神のついでに記す

新百十九

ちとせ山神のせうをの柳え乃さりえ海より来たぬらふ光花

日五

ちとせ山神のせうをの柳え乃さりえ海より来たぬらふ光花

小塩山

葛野郡

後接連六
郡羽もろの岩峰せいの山忠子紀の岩うは焼すうりし 相模
新助
けり那やまおと山田はううりて死つたもよそへてお運まや信札

音羽山

百今
秀羽山本たうて郭云志の別をわむくうり 貫之
松虫乃初志さあふ秋風を秀羽山より吹そめふり 後人
金吾
とく山お葉ちううあふ坂の雲乃を川は流しとく 信札

秀高山

近江

後十
とろふたの秀たう山の神は此あよりとくぬ若り神代なる 匡房

緒捨山

後百七
年津むりをまての心乃積の葉は久しむる音あひうり 人五

織捨山

信濃 更治郡

古今百七
わらふさあぬいさけうらやとほまてあてり月とく 後人

か亀山

山城

葛野郡 漢初有示
一不庭安郡
一不陽吾縣

古今百七
かめたれ山乃岩ぬとこめあつ遊の白もあせのねり 紀推考
後百七
ふめ山あいく葉のちうういへともあかまあ列 戒秀
後百七
けさせぬらふ久し葉龜山の橋も風も地もさしあうり 後人

神山

長中古城 加賀守能登五雲系は
元来は移らぬ山

愛宕郡

百七
かみ山のやま下とみりまらうり絶もは 後人

後修通

株より仰月ゆるきた神山のうた此葉うたへり葉の如し好忠

全巻八

のみ山のうたふさげふ印花を神三あゆひも探るらん寶形

千和

神やまはゆりもる花一葉葉のり列くをそ守りり

床背山

相東郡書折又可世

万 系枕しこを海しよひとせえか世の山よと列くるも

日六

う響乃山事ころを三けしおけしを響そよ浪言乃勢 福丸

百今九

都いてくふみの東しついのわて風さし一 長をそま

後修通へ

海もつれはらう乃ころを列くるそて雲海くうつ 雲をそ

笠取山

一説笠置山

まのま
二葉

百今九

百今九 百今九 百今九 百今九 百今九 百今九 百今九 百今九 百今九 百今九

全巻八

明く入れ山あせふやうの身あせ山居やうもあつ我んふ 後人

春日山

大和 漆上郡

高 かつ山をまたたかしし岩のけまけねみん月行はト

同 常乃まふたかしし春日山あふる川あふるみせこも

千和七

系もつ山移たのこをかくる岩の東葉はねる神もつ云け

春日山谷乃埋まくらぬもあふ若くせむねの杉風 赤澄

神皇山

百今九 せ乃山あは葉ちるうたのこを乃山はもみらうふやあはん

葛城山

葛城郡又葛城山五社

同又新古今

河津川のりみちを流るる水は此山の水を噴き出せりし人

十載

てり月乃孫神の居や志をせしむるは此山の谷川の水

新古今

白雲のたえまにけりくま柳乃つらさ山よ去風を吹

日六

うつら新をぬるの志也地はうほは此のうらまの山

片墨山

葛下郡

聖徳太子

月明王白鳥子
母河人女所

賜運唐和尚

南天竺香至
王才子也

孫遠才

志れりやかき墨山といふはうてぬる孫人あはれ也

神南倫山

平郡 丹波有同名

百十

神南倫の山下と云ふはかき川を流るる水といふ人も

日

孫神てはも志をせし部云神南倫の山はさうもあはれ

古く

ちるも神南倫の山は紅雲をふくむる山なり

後人
之志

長元九年第菴院

一多院中二の山は
此の院中を大女

所時大嘗會

主基方神也云けり丹波國也

古我三

常盤乃神南倫の山は神南倫にてもはる系代のこゝ

古
義志

神道山

伊勢

度會郡大神宮

日 ぬく入て神は此の山を流るる水は此山の水を噴き出せりし人

日
は神

新古今

るる水も神南倫の山は雲をたてて夕の光をいそぐ

古
天皇

新刊 久里乃月れろくの山とて此ありといふはありふ 匡房

鴨山 石見

賀正山乃岩ありてその山とて三つありていふはつありん人

神蔵山 紀伊 牟婁郡 五神社

須石 みるる神々山乃石とてみのふりて其神いれり 久

竈門山 筑前 津屋郡

元輔落葉(浦りありて)の神といふを

そして信ありて道はくも信ありてあゆむは存あり

長はりて秋とありてはく山とてくけり又とげを信

あり

かすみをるをりしりといふ

可也山 槽谷郡

系枕多しとありて其山とてはく山とてはくありて

神塩山

後撰八 系子振神々山の柳とて其山とてはく山とてはくあり

よ 吉野山 大和 吉野郡

今家れ みる人といふは山の梅花ありて其山とてはく山とてはくあり

新刊 世次いしよりはく山の鳥鳴とて其山とてはく山とてはくあり

新和
みりく山并乃ぼくむすも花の下むとまゝるん 巻後
梅をゆくもまゝもみりく山並乃の巻にむすも

横山 氏花

い色なしくあひまゝの山並乃の巻にむすも

大言雄山 神護寺山城 葛野郡

後送の
るま名のこたか山のといひつる君もつよの巻にむすも

高志山 大和 漆上郡

百
まゆのまゝのゆりまゆの海并乃山の梅といひつる君もつよの巻にむすも

日又後
春日野も河もまゝの梅あまの巻にむすも

高山 十市郡

日
たう山乃まゆりまゆり神もつよの巻にむすも

日
まゆりまゆりまゆり神もつよの巻にむすも

高志山 漆上郡

日
みりくのたうまゆりまゆり神もつよの巻にむすも

平向山 八雲ゆりまゆり神もつよの巻にむすも

後千二
紅葉まゆり花まゆり神もつよの巻にむすも

高松野山

百十
里まゆりまゆりまゆり神もつよの巻にむすも

龍田山

平群郡 五社社

^{日十} 花ふらむの存れしむま日やま可申よそて色好なり

^{亥午二} 花の地のみやまふふままあつた山に雲のし志 佐藤

^{朝古記} 龍田山よふまふ龍の松やまは雲やはうと記され月記 通光

^日 その山に松まつりなる海ふゆくと麻のそくする 佐藤

^{傍午} かつたふらふ山のはしりあつとまに釣の福勢 其後

高天山

高木郡 五社社

^{子未一} かつたふらふ山のはしりあつとまに釣の福勢 其後

石見山

石見

^{指造} いそみなりたる海の方本なるを家々の神といふ人にも

高角山

^{辰二} 心とれやまの山の本なるをわが神といふ人にも

^{動相又} まれなる松けりふそふあそたり此山も三つそつる 湯倉 大石

谷上山

近江 栗本郡 書換如日布記

^{百十二} 花ふらむみたるこの山にぬあつとあつとあつとあつと

高徳山

高徳郡

^{日九} 勝よあまはなる山に照月のたつ山にわが神

鷹尾山

高尾郡

甲賀郡

連庫山

百 浪のあはれなるをみわたるをゆりてふく可哉せこ 後人

長田山

千載上 中代とのちかひのしるをきくゆかりの峰は松風 吾後

中村山

赤島園

後拾遺 天のせむらむのらふ木系枝やうら人のうらみ 源兼

那良志山

万又拾遺 わが身をいふのよこ馬をいひぬきよの海なるふ 赤人
吹風をうしれ山の橋をぬきとまきとみちしとふ 後人

じ馬吹山 山城

百 雲のよむまの山吹ふしをいひけはふ 赤人

う 碓氷山 上野 碓氷郡

日 日 のきくわらむいひのよこけの日のせむら 神

中泊山

山城 仁伊郡

百し十九 我身はらやうのうら 赤人
拾遺七 中泊山のをみわたるは七月のさけ日 赤人

荒井山

新和八 けんとそのり 赤人

宇治河 大和

^{万又後古}う地ま山物をさし膝ゆして衣のすけりありあはるる 坂保をたす

宇津山 駿河

^{新古十}まろくろふらうり乃山をのうくまもあふ山とありぬ成るち 業子

^{日十}都あしやまやま球うり乃山夕あふふはりの下みち 定家

^{日十}神あし月やと連しあふとくは後さるうりのとあし 時高

宇津方山 對馬

^{百五}名うまはらうり山く魚升の解ふのあふ成るけりあは

卯花山 越中

^{百八}かいらあはゆり部云卯の花山あはゆりあはるる

お 猪飼山 大和

^{百八}ゆなとやのわいふりゆふそ麻のほまゝあふをたぐりあ 大伴治と烏女

猪名山 攝津 其地はさる部と交る

^{日十}あふらうりあはる山とみ水の名のさるあはる

いふあふあはる山とみ水の名のさるあはる 有京 國房

の 後津山 若狭

あふあふあはる山とみ水の名のさるあはる 坂上 大膳

お 大田山 山城 謂禁中

みくろよこの山を云とみえげの大田山の標ありなり 新院
人よりぬ大ら山の標守は本徳ての月をみりな 北政

大原山

乙訓郡

此に松あり大原山の標ありしを幸ひたし満るせてと見え 元補

大原野の冬残

本指を少して少く思ふうららぬ標を大原のやま 周防 内務

當國左五本

志岩郡

公行大ら山の標ありしを幸ひたし満るせてと見え 後人
此に松あり大ら山の標ありしを幸ひたし満るせてと見え 有東 同左

男山

久世郡

女部をうらやまうらやまうらやま 古今

大野山

大和

此の山標立ししを我るけおまはれは音立しし 百六 憶良

奥津嶋山

近江 蒲生郡 新庄

わらわら海おきりしを幸ひたし満るせて我るけ 百十一

母山

美濃

わらわら山おきりしを幸ひたし満るせて我るけ 日 基師

大江山

丹波 幸田郡

丹波ち乃大車乃山のむろくもむじのふし道にけりを次

大江いれみらるるそ秋をれしもゆりしをあまれ橋立 山部 四指

く鞍馬山 山城 志志郡

まみ深のくまは山よひかへたあかひのさかき 中興 中興

すみろふ都の月乃さわけさよ何くくは山とあし 中興 中興

暗部山

梅花白ふまを色くくゆやま 古今 古今

我虫ふくゆの山乃橋をる浦く地をとも 同 同

りくろくかすもさく 同 同

天乃福よくゆの山乃郭を 後撰 十二

棕橋山 大和 十

ら 万 万

さ月や 後撰 二

草香山 持津

後人 後人

位山 尾陣 益田郡 古位名 古位名

持遠 十八

持遠 十二

黒髪山 下野

万七
ひとむらさきと山残あふして木の下流はゆきあはれ
日七
鳥羽はくはくみさるやまきけぬこまあゆの志すまあを

久米作良山 再作 久米郡

古今
酒さるやうあはれ山と神くは我名とそく
後人
みまほやうあはれ山と神くは乃乃浦とそく
神花
久米郡

や 矢野神山 未勘圓 但伊磨ん

万十五
けりかたはやく神と我名とそく
白い井のう地とそく
山城 葛城郡

ま 松尾山

一条院時 寛弘元年甲辰 昭而行業修善寺地款
十月十日

後持
子也ゆか松の尾さうけみまきとそく
源五
年まで松のち山の前さうけみまきとそく
一宮
記

松雄山 宇治郡

日七
立のちの河津乃さうけみまきとそく
入念
左記

巻白山 大和 山上郡 五津社

日七
山さうけみまきとそく
世跡
いさう神さうけみまきとそく
山の前さうけみまきとそく

待乳山 宇智郡 伊保 上総 赤木と同名

百六 常の山み山あも終る都公今もあぬりあぬる人

百十七 見え玉乃夜をわけぬし玉くを二と山は月かこゆさぬ

百十八 長垣ふの二と山あわしをふるむといふうはあもあたるま

藤坂山

淡路橋下 紫のやちら山はら花のませ乃くう一ありたりのむ

西三位 成実

柏山

山城 相承郡

百十九 六ま山あめ敷く敷くしりも川とつうとと地と家もかまひす

巨勢山

大和 葛本郡 五社

百二十 六せ川の流る橋ばりくぬんはかりぬいせのまゆを 坂門人

百二十一 かつせ山あつていせ山と人かいつとあつて海とぬのあつて

己高見山

近江 伴

金葉記 ねふふとらう風はえとあつて山は高路あつり 俊成

寒山

出羽

新和工 寒の山とけいさとりれあつて今もわをぬく神の都 顯仲

越山

越の山の卯中後こつ國よいつりまともえつりや酒をまよ
まよ上記云跡後國古志山とてまよ古志の郡の山とんゆまや

越大山

越中 新和郡

百二十二 見えあつりれ大山とりていつりまの口あつて我里とらん

あか山

山城

高野郡 上河内

朝まゝ死あし山のはむけまゝ紅葉のめしとまぬ人をさす
とよ人も今もあし山はまの虫乃智を解ふ
昔中を秋もそゆやとゆふまゝとあゆみの山も鳴らん
歌仲

朝日山

宇治郡

新百五
ゆりしをば宇治の川音をきかして言ふみせの朝日山つか
と実

近江

仁治三年後醍醐天皇御時大嘗會惣に方風俗云

後百十
何さあはれ代のうめれおひあまの心林の光りしとふ
お常法
内長

逢坂山

滋賀郡

百十
とれもあまあはれ山のとれまゝまはれは物と恋もつた
後人
ふか
あまの
あまのあまの山のまゝ木かゝるつらとあけり
忠孝

金百二
とれもあまあまの山の都をたつとまのつらあまあり
源定信
十百六
紅葉もあまあまの山のとれまゝまはれは物と恋もつた
後人
ふか
あまの
あまのあまの山のまゝ木かゝるつらとあけり
忠孝

早妻山

百十
あまのあまの山のとれまゝまはれは物と恋もつた
後人
ふか
あまの
あまのあまの山のまゝ木かゝるつらとあけり
忠孝

穴師山

大和 城上郡 五社社

^{四七}あけ山 桂さしむきと額ありあきり中川ありいそはしほ

^四まを乃あるれ山 山人と人もみるゆ山りしつを梨 後人
如志

天香久山

^{一〇七}志まわついでしはくわく山のゆりめ里を志あしをよ 大伴の

^日いしりかも神さひのあさうこ山むねわしむしふ吉野あまん 人丸

^{新方云}鳥鳴きなるぬのす櫛うつを思て月ふしかなつてれく山 佐藤

青垣山

青垣郡 花巻の代葉を花大和國く
延長武舟八知や國を垣山く

^{百一}多川をばくあきりもこの金うりまはとんもまやふしと守り

有馬山

攝津 五三郡 有馬ととも 五温泉神社

^{万部云}思るうさる井をせみかたけとありま山夕暮まぬ宿をうて 人丸

朝熊山

伴務 度会郡 五社社

あしたきてきせをぬらん物くやい山とても秋の秋の月 了常田
延喜の

足柄山

相模 足下郡

わりせに森をまるとやうてまうと次是く山の枝の本はまう

けりかの八音山ふしていまなむれやう君とえつ三のえん

あう此実の山城とけり人まきりもまぬとくかぬり耶 素性
は師

安之保山

常陸

踏馬坂山

久世郡

百九
馬乃たれたる山の松うけを屋とて控へん松は深きなり
人丸
ほそい道の踏馬坂やまのまはけし神のつやとていふ
た

佐保山

大和 津上郡

百六
うけ乃たまふ人乃心等とてまじふ山の山をたけりふかき
ま

百八
卯花のいしこころ移れ都とまの山はまれとていふ
山をた

百七
うけ乃たまふ人乃心等とてまじふ山の山をたけりふかき
ま
後人
おま

百九
神のま月とていふ山はまれとていふ
山をた

五月山

攝津 一坑佐保山

百八
五月山うけ花月とていふ山はまれとていふ
山をた
後人
おま

五月山うけ花月とていふ山はまれとていふ
山をた

佐保中山

百八
五月山うけ花月とていふ山はまれとていふ
山をた
後人
おま

更級山

信濃 多田郡

百七
月影とあすみるこころはまの山乃藤とていふ
山をた

佐美山

讃岐 大内はる郡うけま

百二 けまもつらんとりてたき海とれこのの、乃に霧さるる也人を

き着桶山

大和 添上郡 本町山と云致云く

四十二 奥夜きるる乃山、夜く鳥けまろく時を、秋のやうに

象山

高野郡

四二 やまのふらてうらんふ、鳥きけのるう山、いそむる、異人

四二 詞花と みる、野のまき山、はなを、松い、秋の、此方、さる、人、好、景

末増山

近江 滋賀郡 左近郡山

拾遺と わ、せと、秋、ま、せ、の、山、と、人、の、心、と、志、を、ま、ま、ぬ、の、若、き、し、人、を

古脩中山

脩中

古今カ

下り、福、少、く、さ、ひ、の、中、山、を、い、ま、き、け、谷、川、の、あ、は、ら、は、り

今一

う、ら、ひ、の、あ、く、ま、は、あ、れ、や、海、う、瑞、ふ、乃、山、人、を、ま、ま、り、人、頭、兼、

新古七

常、懸、ち、り、ま、い、の、中、山、を、う、り、ま、り、て、ま、幸、の、松、の、あ、ら、い、ま、り

後人 兼

木綿山

豊前

百七

れ、あ、り、は、ら、ら、れ、く、秋、掛、ふ、の、雪、れ、う、く、を、懸、あ、ら、は、り

四

かり、い、ま、り、と、れ、い、ま、り、を、一、巻、回、の、松、ふ、山、若、の、あ、ら、い、ま、り

木綿山

未勅 一説 筑前

四十四

ま、は、ら、も、可、ん、と、も、積、入、ゆ、あ、り、山、う、く、ま、り、と、あ、ら、い、ま、り、あ、ら、い、ま、り

三室戸山

山城 宇治郡

おろしきいしうらみのなほくしほはあはれとみまじり大蔵冠

女こまき

日 ともとのみよはるりみら葉のふのすもあつらふは

日 心もまじりみよの山もまじりまじりまじりまじり

全集 いろ年かると表とみこふ二葉の松乃あせ乃き

十載 下乃とけり色とや柳葉とみこふまじりまじり

邦和 了後とみこけりこころは心のすなはれ

と帰山

山と郡

百二 みるるなるんこみまはるりかこはるまはるり

古今十八 我いふんみ此山をのびるるこゆるこを板をり

是乃明神乃清神とらん

日一 と帰山と云りしかたもまゝあつらふまね花やらん

ほ推す 右乃乃まじり山らみ尋ねまは板乃月の影をり

かりおのみよのまけりこもて表とまね板をり

耳垂山

十市郡 有神社延存式有院

古今十 見ておの心乃ちりまじりれ思いのまは下流をん

水分山

万 神さゆいも板ありしみる水乃山珠みり

舟船山

日部

日又新物

みるのこころのこころをいれ常々人々我思ひあふ人々

風雅二

物音もよもめをてふよもよも母の心と唱へてふこころ也 日

玉葉

瀧のこころのこころをいれ紅葉をふり秋の心と成りてふ

隆徳
は所

後には
後には

こころをいれ紅葉のこころをいれ紅葉をいれあはせるぬき 信光

南洲山

百十

ほを眺みよら山々もあはれよとて紅葉をいれ紅葉をいれ

三室山

日七

日つきぬの多は深しうあらうけのこころをいれ紅葉をいれ人々

日二

みるをせしこころの山の岩をいれ紅葉をいれ我のこころを

天今カ

神をいれみる乃山は紅葉をいれ神のこころをいれあはれなり

後人
心

十載一

こころの山をいれ紅葉のこころをいれ紅葉をいれあはれなり

中細
回信

日

神の心と紅葉の山をいれ紅葉をいれ紅葉をいれあはれなり

法橋

日六

みるのこころをいれ紅葉のこころをいれ紅葉をいれあはれなり

二葉
春大屋

水雲山

折津 傳之部

後千載

見るをせし夕の紅葉もあはれなり紅葉をいれあはれなり

後我
古語

三國山

百十

みるのこころをいれ紅葉のこころをいれ紅葉をいれあはれなり

水尾山

近江 高竹郡 日永記之尾 延喜式水尾

^{後遺十} たゞやみふの中山 松をばけりてはうらむねと世のるこく ^{後人}

こころ

野列郡 拾遺 或作上 抄社

^{日十} ちんやゆりこ神の山乃柳系えはくをゆり末のまへる ^{後遺}

^{十部十} 常葉有のみこの山は板むや八百葉代のまへかかん ^{後遺}

^{後遺十部十} あさみより見りてはやまのまへあへるやも幸此始なり ^{後遺}

三村山

^{新加} けぬしのみむしの山乃まみら葉能ありや ^{新加} 神如ん 曰

美濃中山

美濃 不破郡

後遺十部十

あつげりては中山 秋あして又と終るはねのそま ^{後遺}

美濃中山

日部

新加十部

思ひりやまはれと山乃るは川松葉あり ^{新加} 山乃るを志世 ^{後遺}

美濃中山

美濃

^{百人} まつりては世りてんとあつりては ^{百人} 山乃るは ^{百人} 山乃るは ^{百人}

美濃中山

美濃 不破郡 五神社

^{新加十部} 出よむと若やと ^{新加} 山乃るは ^{新加} 山乃るは ^{新加} ^{新加}

美濃中山

美濃

^{新加} たつあめと ^{新加} 山乃るは ^{新加} 山乃るは ^{新加} ^{新加}

恒撰 記しけ山路とくこ新撰て本此末の紅葉てる 菅束 下

一重山 回

ひと重山を解る物秋月よこひおいてちいもまらん 赤松

も守山

近江 野洲郡

古今よ ちかや河をいもくまらして下葉のあしをたふらん 世之

初花と 秋の初月け光志りの山へ木は下りまてるあうらん 藤束 主基

世妓山

紀伊 伊勢 伊賀 伊豆 伊予 伊勢 伊賀 伊豆 伊予

世乃の紅葉ちかやこく新撰の山のまみらん 赤松

す玲麻山

伊勢 北条郡

十載云 吟のゆめたえぬまはもく山者くまのそくがくれ 旧書

下紅葉の小片玲麻山の時ふのひつゆまらん 徳富

末松山

陸奥 名取郡

古今 赤松 ちかや河をいもくまらして下葉のあしをたふらん

赤松 下 末の松山は花をやくゆめまらん 加賀 下

赤松 下 末の松山は花をやくゆめまらん 加賀 下

二 山嶺

倅吹嶺

美濃 不破郡 通名 國名 石

新古今 倅吹嶺 石 通名 國名 石

今来嶺

仁倅 倅郡 郡 金剛寺

万又嶺 倅吹嶺 石 通名 國名 石

倅吹嶺 石 通名 國名 石

は泊瀬嶺

大和 郡 郡

倅吹嶺 石 通名 國名 石

を小金嶺

新古今 倅吹嶺 石 通名 國名 石

か風越嶺

信濃

倅吹嶺 石 通名 國名 石

よ吉野嶺

大和 吉野郡 郡 大和 金剛寺 神社

倅吹嶺 石 通名 國名 石

倅吹嶺 石 通名 國名 石

倅吹嶺 石 通名 國名 石

倅吹嶺 石 通名 國名 石

大高野嶺

紀伊 伊勢 金對峯

後白河上 い酒しそねたりとこの月とこそゆき河法の程もなる道 後白河

つ 筑波根嶺 常法

右今下 はくそこの岸此をみち系落はるるまき始るては毛 後人
は横 はくそ神代もこのちみちの川志をばより七瀬 後人

ふ 二上嶺 越中 村水郡

百十 明ころえのこねとの志くもく入山は越中をよきる次 後人

あ 有乳岩 越前 越前郡

屋この岩乃は芽り原を埋まぬいふわらる岩片と名 後人

三 嵩

い 伊駒嵩 大和 平群郡 五社

新下白 秋忘乃やとふ乃里や忘るゆ所いあるのむき雲かむる西行

河内 河内郡 高岡名所

百十 難波と秋の北かこくまの秋ふいあるのなやあま 後人

よ 吉野崎 大和 吉野郡

百十 みるゆのうたたふふ雲のなをみよふ 後人
新下白 大いふれをゆ風秋伊勢吉野はけの月とこそ入 後人

木大寺

近江滋賀郡

新物 木大寺のいふ吹風は昔もして後のいふ月々々々

前傳正 意志

穴師寺

大和 城上郡

風はふいふ此河每死くしあり此た者ふかろふ云

比叡内 大旨

清乃寺

信濃 小縣郡

指是すこ いはそわの恋やせんらるゆあふ海のはは煙と煙と

後人 意

新古十 是風のなる清乃のさきふら煙をらる人のやさうぬ業平

弓柳寺

大和 城上郡 弓月寺

百七 ああはりのいとたう中なり此地つきうたけぬ雲は流 今

みこと山

近江 聖洲郡

新物十 ともふらるのみさきけとらふけていふ海ぬまはら波

比叡内 持政

根

保根

上野 群馬郡

万 かしら者乃いふ此秘る。清若れりさそそのいふ秘れある

甲斐根

甲斐

風俗方

百八 かしら者乃いふ此秘る。清若れりさそそのいふ秘れある

後拾遺
いしつたふいのふく福をく福をも常めくあつていしつた
紀伊
或戸

よ音野言根 大和音野郡

みうたな福の根ちりおりの常をさうさま此の^{新古}の^上上

た多胡根 上野 群馬郡

ふこの福めく世にをくしてす流さあめく^百何の^いい

つ筑波根 常陸 筑波郡

けくそねのふ葉子根のうぬあましとあみき^同あま^い福

けえん^同のけえんけえん花のゆいこめ^いあせい^いく^いく^いく^い

ふ富士高根 駿河 富士郡

ゆの福は清きけり雪のみ各月のりら^同あま^いあま^いあま^い

和も^同ちか^同富士高根は雲は清き見^同園はあ^同月乳^同頭補

日く^同志^同よ^同山^同根のうね^同志^同く^同富士^同は^同ね^同の^同あ^同ま^同え^同と^同あ^同る^同

こ越白根 加賀 石川郡

年^同ゆ^同く^同ゆ^同け^同心^同を^同み^同時^同を^同あ^同れ^同く^同福^同を^同あ^同ら^同あ^同る^同

か^同ま^同の^同弘^同仁^同十^同四^同年^同小^同つ^同な^同ま^同て^同信^同道^同の^同方^同業^同長^同越^同前^同の時^同神^同ん

あ會津根 塩原

あ^同い^同は^同の^同ふ^同き^同と^同あ^同い^同る^同い^同く^同は^同あ^同ま^同ん^同と^同い^同は^同ま^同あ^同ね

有乳高根 越前 敦賀郡

吹風玉葉のあらしらた子雲はそて身は枯れふ雲少くも 新古今 四ノ目

い比良高根 在江

十森の 依し浪やまのたう祿の山江葉海乃物とあはる花意

比古高根 是前

玉葉いふまゝ死にけきし祿の波うぶまふとけのあまふらふらふ

五 尾上

い岩代名と 紀伊 日高郡

坂指建いりろのあ金の風は幸ゆきと松乃みとくうらうらうり 賢仲

は泊瀬山尾上 大和

花のよきな跡音やうてとらまふはう祿の丁をまて 新古今 四ノ目

よ吉野山尾上

後拾一うの山いく代乃まのゆきはんをとれ花と雲ふ海うて

た高砂尾上 播磨 式言砂山懸名

後拾一たの砂の杉よまむはりのあらまは尾上の雲やまのりん え梅

高園尾上 大和

新古今秋の花を神ふりけてたうまはれ乃のあまい道ゆき道 形昭

六 巻

盤石代巻

紀伊 日高郡

君の代りわ世と馬をいふ所のよれや程成結ぶあえ

初を志と今つくらういふ所のよれわねむじ 式子百

今来畧

板石より海行み部といふたのよれつてまゝなり

入日巻

未勢回

著有る乃を此志の原より著て入日巻よして次唱く 式子百

か 巻巻

山城

葛野郡

佐治

萬代ゆき世成りて足抱うれかめ此巻なり松のみより 式子百

片巻

大和

葛下郡山城巻畧五回各其なり 奥入

明巻乃むらひ乃著に志并海はあし志のなれはふえり 百七

巻毎のやう初しる巻のよれあそ録なり其後 十載

交野畧

河内

交野郡 延喜式片野

あしを中やたれ巻のよれあそり 四十六

な 雙巻

山城

葛野郡

ゆりほりり年と成りしる巻のよれあそ 百七

明良師畧

大和

佐野畷

紀伊 牟婁郡

秋風乃さしう祖きまををりて人よさぬさまを人

さ衣笠岳

山城 葛城郡

善ふきくたぬくをましくぬん福つなふあめれあひ

ゆ廻岳

大和 高市郡

飛鳥川にけふ此畷のあふれんきふゆのあふちつひるん

み御輿畷

山城 葛城郡

みよし思ひくせせも幸よてたよのゆきみはつてらん

水蓮岳

近江

杖名の日ふふふらんまらけ畷の本系はあけらん

あふれよのなふいもあめれ福をたつたのあひらん

あ金の舟くつらんらんまらけ畷のくを葉はあけらん

し法岳

大和

志守畷のあふらんらんらんまらけのねる本系はあけらん

忍畷

河内

志守畷のあふらんらんらんまらけのねる本系はあけらん

信史岳

法奥

何れもあふれよのあふらんらんらんまらけのねる本系はあけらん

信史 法奥

七 坂

伴津波多坂 越前

百十八 此坂は此坂の地を以てしりりて此坂の神事なりと思ふ

碓氷坂 上野 碓氷郡

百十九 此坂は此坂の地を以てしりりて此坂の神事なりと思ふ

大坂 越中 式方郡

百二十 此坂は此坂の地を以てしりりて此坂の神事なりと思ふ

久世鷺坂 山城 久世郡

同新勅

此坂の地を以てしりりて此坂の神事なりと思ふ

後人 案

藤代津坂 紀伊 名草郡

此坂は此坂の地を以てしりりて此坂の神事なりと思ふ

相模 足上郡

此坂は此坂の地を以てしりりて此坂の神事なりと思ふ

逢坂 近江 滋賀郡

此坂は此坂の地を以てしりりて此坂の神事なりと思ふ

此坂は此坂の地を以てしりりて此坂の神事なりと思ふ

木曾津坂 信濃

讀後撰

忘るれらやきをれらゆ丹小藤系よりけ種をわやあけり長方

讀後撰

吹のりまうれららの春風は松をさうぬ花をさうふたの

山行相攻

紀伊

種さあひのされゆりふ心くさう橋乃花をみえり

八 溪

か 霞谷

山城

古今其

深きややすらるる谷よりけりたる山をさうふたあひ

し 温谷

越中

一カナ

志願者乃やのあひ山をさうふたあひ

あひあひ

九 松

い 泉松

和泉

日又新和

ま本川よりけを角まきたけをさうふたあひ

後人

を 小比叡松

近江 滋賀郡

讀後撰

ねほいえやあひまのけまにま本川よりけをさうふたあひ

日吉社

わ 我立松

日不強相名あん 後自傳教士所傳言哉

千載

おほいねくうれ世の民はわらふを神よりあひす

日吉社

河橋多羅三頼三喜提乃傳とら我立松真如あせ松入
傳教 土師

く朽木松

甲斐郡

全葉 幸始まこと人もはるめぬも悪や朽木松の若れ埋ま
形補 有糸

新古 毛さぬら木れ松のう海人のいあか道さあひん

あ梓松

午敷 高木川あつたはるま松さるて難波の浦とてさうりぬ
信岡 土師

み水尾松

高橋郡

日守紀三丸
松尾松さるん

孫達十 たりゆやふの中山を海さへはらうか福もませたるん
孫人 志

し滋賀系松

甲斐郡

全葉 都たああふのめいといふはま松のう海さる池りん
隆源 土師

ひ日高松

系松

子休ててもいふは松のあまさるあけさるん今あふ
先後

十窟

か笠置窟

山城

千歳物名 名りたりはねのゆまらる森のといえはるはいもさるぬ
壺道 土師

みこ穂窟

紀伊 日高郡

百 志乃中まらあはるあひんあふりさるのいをなまさるあぬ

し志那窟

日 不形人ちほろろと邦のわたりまはるる乃いよもつく代也

十二 氷室

う 宇多氷室

山城 高野郡

新橋 凍ふ外あしひくはるる乃たのむろは松乃下りて

西園寺
冬寂存

十三 炭竈

を 小野炭竈

山城 鹿毛郡

指違 小山本流祖なる多ふなりはりえさむさといふや炭やう

曾孫
好名

信指

都よりとろ高少きもの山乃松のまえり海たき海よりん

お模

木 大原炭竈

日那

新百 日較方君首に月ありをみり海乃煙をさむ大原の里

或子
日新

日 木よりとろ大原山のまみり海いづる名兒のねとてけめ

お模
尼

十三 限

こ 飛火限

大和

万二越弁 伴野山とてひくはるる乃の葉林志くはりて

大長限

奥州

基良法興守を福うり下あり武隈の松此に
て傳ありと云ふ金匠をせめて何とて後みたり

回ふ方ありて赤乃何より金一松をみる

は獲十七

う金一時時やあらん武隈の松と云ふいあひし傳りふ

有泉
乃泉

後拾十六

た者う福の松と云ふ法都人いふとて見たりと云ふへん

橋幸
通

能因法師法興守三交下て後のふか乃松意

何し何の事日一と云ふみ傳あり

寺け福の松と云ふい法を何と云ふと入て我ん云らん

師信云傳松守法基良始載之而為野火焼

満伴何と載之又矢橋道貞何載之其後存

善哉之為橋

阿河武隈

古今

あふく福ふ吾立とて明ゆと云と何と云と云と云

佐槍隈

大和

可

あふくふみさるゆと云と何と云と云と云と云と云

古今

けのふ福いのかと云と云と云と云と云と云と云

十志

稲荷隈

山城

紀伊

後援遠西
たきのまかりてまきなはあつた十日のまらふあふし思ふ人
ふか

柏洲流 大和

しうまふ流いふ途おしれいふしらふ流らけとや 源國氏

こ戸難洲流 山城 葛野郡

今昔三
大井川の紅葉いふうまぬるこなせ乃たまのふのこせむら 大中
千載七

あけの河とせの流も男となけてもかくしんいせうか 是仁
後古云

あふ山のあけはまみち系とこせせ流おらてとみる 経伝

わ布引流 攝津 八郡郡 生田奥

今昔
しらあまやあつた乃末あんなやるあつた布川の流 後人
石志

を香羽流 山城 志保郡

山三乃ととせ流のふせは人のあつて我恋りや志 吉
百今

香雲流 紀伊 牟婁郡

恋侘くそろうせ流の香も流くあつた流や香ののたふ 中御
後志

か香尾流 山城

古今七
かかたの山乃岩社とあてあつた流はとせの流を推想

吉野流 大和 吉野郡

神龜二年丑夏五月辛酉野羅宮時蓋村作秋

万
あけの山乃岩社とあてあつた流はとせの流を推想

日 ちんせめははらるるよ花みうらたふれみるもはらるるたまわ
日 ちんせめははらるるよ花みうらたふれみるもはらるるたまわ

つ 鼓瀧 肥後

後遺 香ふさうけいこのなまよあみまへて山川のなりふんまがる

な 鳴瀧 山城 葛野郡

なり瀧や山のなみよは種まへ岩よ次ははちやちよと信成

紀伊 牟婁郡

あの人身乃三門のふく成るけふんあつたはひは
かんとあつて熱跡乃侍前道あつて侍りる

ふ 号乃三門のふく成るけふんあつたはひは

新吉 けりふさうけいこのなまよあみまへて山川のなりふんまがる

那智瀧 日那

あられ山けりふさうけいこのなまよあみまへて山川のなりふんまがる
武乾院 伊豆

布田瀧 大和 山辺郡

後遺 今もみりて見ると花のなみよは種まへ岩よ次ははちやちよと信成
法鏡院

き 清瀧 山城 葛野郡 高野山

古今 去り。瀧乃けりふさうけいこのなまよあみまへて山川のなりふんまがる
新たい け師

人 宮瀧 大和 吉野郡

亨子院 寛平昌泰元年戊子十月廿日幸吉野宮

白河 白河院の山名ありては地ありおぼく白河の山といふは

白河院 山城 志保郡

白河院の山名ありては地ありおぼく白河の山といふは

十五湯

大飼湯 信濃 吉原郡

鳥の子まじりては地ありおぼく白河の山といふは

は走湯 伊豆

玉葉

玉葉の山名ありては地ありおぼく白河の山といふは

湯余 大石

筑摩湯 信濃 筑摩郡 書指 延喜式

な七久里湯

な七久里湯 下野 那須郡 有栖社

那須湯 下野 那須郡 有栖社

わが身と人の身とをたてたりといふは

名取湯 陸奥

孫連物名

れ何らうれ雲の道場をうれさうけにけん然りあり 平重盛

有馬湯

標津 今言郡延喜式而記 有言 五社社 互同

千載

よりさみ抱えみよの神ありと云ふあり此湯湯に資質

は温泉といはれ乃明神のたろしと云ふ也

葦原湯

百廿

りありさみのゆらみにはる抱のちぬと云ふといふ

十六河

い泉河

山城 相木郡

千載

いはし川る乃みよはふつと云ふ此水のたもさふり 仲実

日記

何れれやうのりつりふれと云ふつと云ふ人 僧部 玄亮

新古

と記するぬ浪さふるり月をたのす術も嵐やう 定家

生田川

攝津 八部郡 日本記 河田 延喜式 生田

千載

と記してらぬの甲はろかたす那くあくの川のありはる 若道性

五十鈴河

伊勢 度會郡

新古

神風やいもけ川乃交ねいも世をのまけりめ事人 信成

いし川分やまゝ素秋の初志より岩稜の松乃り夕を 古中 明親

不知哉川 近江大郡

いぬみのおとせ山をいふや川いよとみ入ら我名をみれ 天智

伴津貫川 美濃

夫の代々いふ代々みぬま川ぬま川の鶴れ毛より 延建

射水河 越中 利多郡

別みふさけいほち 百五 川ありよ見たりつる西人

中雨河 播磨 吉備郡

あせりやいふは川の如く 日 海に流るるやいふ人

妹背河 紀伊 伊都郡 有於 山崎

いせ河なるむとらみくまて 後山 山崎 後人 不知

も乃る人ゆらせ 後山 山崎 後人 不知

穂田河 牟婁郡

いし川よりみぬのちけ 後山 山崎 後人 不知

石川 石見 或肥前

たよあ 二 川いよとみ入る 二 石河 二 雲立 二 山崎 二 山崎

は泊瀬川 大和 磯郡

いし 日 又 後山 山崎 後人 不知

日十二
河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し
新古
河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し

に丹生川

吉野郡

百七又千載
河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し

ほ河川

山城 吉野郡

河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し

細川

大和

河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し

と戸難河川

山 葛野郡

百七

河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し

河川
左記

百七

富徳川

大和 平群郡

河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し

河川
左記

泊瀬川

河上郡 八雲村 かつせとせ川

河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し

鳥籠山川

河上郡 かつせとせ川

河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し

河川
左記

利根川

河上郡 利根郡

河をさるるに於てありし河神を川より引寄せたが如し

百七

ら筑摩川

信濃 小縣郡

此川のなる地は筑摩川に流るる石を以て筑摩川と云ふなり

平音羽川

山城 志志郡

此川は山城府志志郡志志川に流るる石を以て志志川と云ふなり

芳無河

紀伊

年事郡

平五院僧正行善慈師の葬て後都なるの
河なるをくはりて芳無

新古今十七
芳無河なるをくはりて芳無

わ度會河

伴理

年事郡

わ度會河のなるをくはりて芳無

か紙倉河

山

葛野郡

此川は山縣郡葛野川に流るる石を以て葛野川と云ふなり

鴨川

安芸郡

鴨川は安芸郡鴨川に流るる石を以て鴨川と云ふなり

後一條院の時時此川に流るる石を以て鴨川と云ふなり

のせめて此川に流るる石を以て鴨川と云ふなり

清幸をうかすのほろろくはまきやうとて行あしげの

選子
四歌

鴨羽川

日記

清原撫丸 けうのちのちのえは花の... 成て久し成のころも

常盤井
入る

極川

し刺那

新古 久し中なるの極川... 成て久し成のころも
清原撫丸 かつ川... のをたれ新を...

津系備河

大和

手群那

頁 ふらう... 津系備河... 大和... 手群那

よ渡川

山城 東久世那 西し刺那

鴨川極川... 津系備河... 大和... 手群那

津系備河... 大和... 手群那

清原

六月... 津系備河... 大和... 手群那

後人
云云

新古

鴨川極川... 津系備河... 大和... 手群那

云云

吉城川

大和

吉城川... 大和... 手群那

吉野川

吉野川... 大和... 手群那

吉野川... 大和... 手群那

東松
千年

新古 龍田川の流をたぐひては田の流をたぐひては
日七 龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
日七 龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも

横川

近江 信守郡

新古 龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも

た龍田川

大和 平群郡

新古 龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも

新古 龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも

高瀬川

河内 葛城郡

新古 龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも

竹の

備前 邑呂郡

新古 龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも

玉川

山 井手玉川 同名七ヶ所あり

新古 龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも

新古 龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも
龍田川に流す水は龍田川に流す水と云ふも

龍田川

何とぞ人の世の玉川 蘇もえて安なる海月やけり信也

古歌

たま川はらもてらうららけり 昔人の世にやあはれ

古歌

世ふらもてを不ぬうてみらるれば世の玉川もさうら

みらるるあつてふさる玉川のむらもたよ道なきしを

和作

高野の奥の玉川とてあつれば水よ毒虫の架

かへりてはらるる一輪のうらやうとてあつればはらるる

和

心てくも志けん旅かたはれあつて玉川乃ち

和作

和作

玉川とあふれり一卵の世のよまらるる名ぶくえられ是世

夏よりくもあつてあつて玉川のおてはははらるる卵の世なる者

田上川

近江 粟本郡 日本記云々

月影のたるるはら清々ぬあつてあつてはらるる名ぶくえられ

衣もれたるる川もあつてあつてはらるる名ぶくえられ

多摩川

丹波 多摩郡

あつてはらるるはら清々ぬあつてあつてはらるる名ぶくえられ

玉鳴川

肥前

松浦郡

^同松浦守玉一海川よあむけつとたりきつらあちかき

^日たまのついで川よあむけつとたりきつらあちかき
ありき

う漆川

筑前

^海けりなるあ川とらるるまもけつとたりきつらあちかき

神歌川

末勅回

但太敷

^万とけりなるあ川とらるるまもけつとたりきつらあちかき

な中川

山城

桑柘川
二あり

^海けりなるあ川とらるるまもけつとたりきつらあちかき
^中川の氷

橘小川

^新みろきなるあ川とらるるまもけつとたりきつらあちかき
^代曾

夏翼川

大和

吉野郡
夏翼川

^万あちかきなるあ川とらるるまもけつとたりきつらあちかき
^湯湯

湊川

伴海

^全せきなるあ川とらるるまもけつとたりきつらあちかき
^佐佐

名取河

淡路

名取郡

^新るなるあ川とらるるまもけつとたりきつらあちかき
^海海

昭々たる春の日照くわんとして花のさすのむきれば理本定家

長等川 備中

^祖くじんののらも色りしと名月もあるくは川乃菊折く水 皇之位 淨持

梅津河 山城 高野郡

名乃うしる折るもみ原梅津河の世まれば色り見え御 後人 志

六田川 大和 香梅郡

かろくなくむろくろの川柳折んあつたさあぬ川也

武庫 枋津 武庫郡

^日むい川の水深を中いあつた浦乃わくくを地女御道はばふ

宇治川 山城 宇治郡

^日氏とれやそら代は乃あはれんといふいふる此の事よもよ人

^日くら川はあつたかといふもいふてきふく入はせま

^{金草}宇治川のはたけとみえぬ夕暮標の端人あらもあつ 坂光

^{朝古二}あそり乃女をいふ福もあつた宇治の紫舟 高野

^{日三}特飼舟あはれんがゆいの中あろやえうら川の女也此舟 高野

鷲坂河 越中 瑞穂郡 延喜式才十 井原 河二

^{万七}^{みむ草}うろくくハわつた殿かひみはあつたあつたあつたあつたあつた

井手川 山城 綴長郡

日 玉色かたせり乃あうこころを多かき忠のしめぬ我んを
くち形乃あまをせめぬ歎久し花の下りしての川水 有
定経

猪名川

折津 其地は遠る郡有く

万 かくのふも者か物とあなは乃れくさあめてわつ思ひ知る 娘子

の能登川

大和 清上郡

万 乃とらのみちこふあてのまらこまの山にたはるるこせ

野戸瀬河

河内 安昭郡

万 たるをうれとせの川の清よありいよは神をうまう

大井川

山城

好撰 大井川うらうの東かやあま小倉の山名の成りり 業平

延喜七年抄

好撰 大井川の人の杉よまをいふは世にわたりしむ念 紀貫之

万 かんねらくても笑のみるまふなる神ぬかゝる人 後撰

あふまは葉るるまて大井川むしよみ世の流の白糸 後撰

大原川

管見郡

後撰 世中ふあやま物なるあまてし大原川のつらむそむらり 惠孝

思川

筑前

好撰 思川の川たはるる水のあまらうこころあまをさきか 好撰

倉橋川

丹後 与佐郡

万 一ノ丸ノ川乃其ノ流也其ノ水清キ事ハ其ノ流ノ道ヲ

熊野川

紀伊 牟婁郡

新百八 乃川ノ水モ其ノ流ノ道ヲ

野洲河

近江 栗原郡

万 此ノ水モ又モ其ノ流ノ道ヲ

支待乳川

大和 宇多郡

万 此ノ水モ又モ其ノ流ノ道ヲ

卷向河

西三位 志保

万七 此ノ水モ又モ其ノ流ノ道ヲ

松浦川

肥前 松浦郡

四五 此ノ水モ又モ其ノ流ノ道ヲ

富士河

駿河 富士郡

万百 此ノ水モ又モ其ノ流ノ道ヲ

本播川

山陽 宇治郡

此ノ水モ又モ其ノ流ノ道ヲ

巨勢川

大和 葛上郡

西人 志保

可
そぬらういほまらういそらういほわらうい打もせ川乃流はあは

志保川 常陸

^{後拾遺}
よひせ川乃流はあは水とて神とて海に流るなり 古語

衣川 陸奥 盛井郡

衣川乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る

あ有栖河 西尾郡 山城

^{千春}
あもやあは乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る 古語

飛鳥川 大和 鳥羽郡 飛田

^{百三}
あもやあは乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る

^{日七}
あもやあは乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る

^{日七}
あもやあは乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る

^{日七}
あもやあは乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る 陸奥

^{日七}
あもやあは乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る

^{日七}
あもやあは乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る 新恒

穴澤川 大和 城上郡 延壽寺 日言師

^{日七}
あもやあは乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る 人丸

^{新恒}
あもやあは乃流はあは乃わきまたりとまらうい海に流る 忠信

秋津河 吉野郡

万 みるに 枯津乃河 新代りた 拙と死 ぬ又ふりて

三川 河田 高野郡

古今 みのりしと 流めふ 聲と かなん 河 ぬ 我ん 三ふり 業事

河 久口河 楠津

接道 人 ともあふ 河 津の ぬ 舟 名 なる ぬ 物 ぬ 又 ぬ

河 渡川 近江 高野郡

百 あり ともあふ 河 柳 あり ぬ 又 ぬ ぬ ぬ

安藤川 下野 安藤郡

田古 下 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

河 本 隈川 陸奥 高野郡

は ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

新古 天 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

玉葉丸 流 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

河 野川 讚岐 高野郡

務 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

澤 田川 山城

金葉丸 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

新古 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

佐保川 大和 清上郡

万 河不^{カハ}にやき^{ツト}たつ^ツて^ツあ^ツる^ツも^ツ鳥^ツ河^ツ津^ツ跡^ツ二^ツ立^ツ余^ツ兼^ツ都^ツ毛^ツ

目 ち^目と^目り^目あ^目る^目さ^目か^目ら^目い^目つ^目の^目風^目と^目い^目ら^目う^目ら^目う^目海^目ま^目る^目く^目と^目え^目 古^目保^目女

日 佐^日不^日に^日る^日水^日と^日寒^日と^日て^日極^日回^日と^日有^日流^日早^日橋^日の^日獨^日る^日ゆ^日に^日 家^日指

日 夕^日は^日ま^日さ^日の^日い^日ま^日あ^日か^日の^日の^日あ^日ら^日う^日津^日と^日津^日跡^日を^日写^日す^日 清^日人

日 古^日つ^日の^日さ^日か^日ら^日川^日ま^日ま^日り^日に^日く^日て^日わ^日ふ^日せ^日ら^日う^日津^日一^日ら^日り^日 同^日院

日 紅^日葉^日み^日あ^日な^日り^日ま^日る^日我^日と^日津^日も^日さ^日の^日川^日音^日ま^日る^日も^日ん^日 惠^日宗

日 河^日不^日の^日河^日ふ^日さ^日け^日ら^日な^日る^日海^日浪^日の^日ま^日ま^日り^日や^日り^日ま^日ん^日と^日ま^日ん^日 清^日人

日 今^日ま^日る^日津^日の^日う^日ら^日や^日ま^日い^日ら^日ま^日て^日津^日と^日津^日の^日川^日津^日 入^日古^日國^日白

櫻川 常陸 筑後郡

日 津^日不^日ら^日り^日と^日ま^日る^日は^日ら^日の^日津^日川^日を^日け^日花^日を^日ま^日り^日な^日る^日ま^日る^日

更級川 信濃 更級郡

日 今^日あ^日は^日津^日一^日の^日ら^日る^日津^日と^日津^日の^日津^日も^日ま^日る^日物^日を^日津^日と^日津^日 清^日人

佐野中河 赤松 今赤上郡

日 津^日不^日ら^日り^日と^日ま^日る^日中^日川^日津^日と^日津^日の^日津^日も^日ま^日る^日津^日と^日津^日 清^日人

子法流川 山城 葛野郡

日 後^日あ^日ら^日と^日ま^日る^日津^日川^日を^日津^日と^日津^日の^日津^日も^日ま^日る^日津^日と^日津^日 信^日宗

日 岩^日津^日と^日津^日の^日津^日川^日を^日津^日と^日津^日の^日津^日も^日ま^日る^日津^日と^日津^日 信^日宗

美布祿川

愛宕郡 五井社

和泉或部行の山をたふし信者の比美布祿川

流れて御多ししはふはくろくふ信者のとて

物たりんは信のほくろくふ信者のとて

朽く山なまらてあつたきくむらうり物をたひん

こははるの里は勢うそ武アア耳はすくちか

美布祿川むらうせせは信流むらうく社の本乃月

社司やまも美布祿川むらうてあまふい信流

はわてよふあぬ

朝古

大津田乃らうはよらうをたうもていせはふりしははとの神

賀美 幸未

鳥小川

大和 音部郡

万玉

むらみきらのとらや今みきいらしは信流むらう

賀美 大は

木綿糸川 末葛園

日七

わのひもとてまらてゆては又うらう人形代えぬ

佛も洗川

山城 愛宕郡

持遠

あはくそみまはらはる赤る身た法のうはまあぬ

千赤

黒りたあみうしはとま水は信流むらうあぬ

朝古

洗めしれみしはのまらわらぬ

月四九に持るみるし川を初とて也。も持るふあひの神 佐成

三橋川 大和 城上郡

夕百十河もりのりみよのまに世のまをたけとて

見馴川

世初中ももまとなみるまにみるまをまをまのり

水女川 橋津 城上郡

ら百能あまを物もかろみるまにあつてまのり

みる人よゆとせりるをら能川を流しとてまのり

人まらけ流たのそみるまにまのりまのりまのり

新六

みよせは山平のまに見るまに何なりいり人

ゆらぬまをせらる埋まのまのまのまのまのまの

漆川

八郡 城上郡

十部

みるまにのりまのりまのりまのりまのり

見るまにのりまのりまのりまのりまのり

河原川 河原 城上郡

見るまにのりまのりまのりまのりまのり

宮川

日部

見るまにのりまのりまのりまのりまのり

三川 冬河

万丸
三つりの淵を知らず流れてさうてきてぬき思ひをばす

美奈能川 相換 後念部

酒多しとぬまうりおまら此み各乃世川思ふらん

美奈乃川 常陸 筑後部

好撰
行くを福の家うらわろみ各の川思ふはさうて淵を知らず湯殿院

三尾松川

後千載
大川を流れてさう山川乃み各乃松川思ふと記る

美豆小川 末高田

後撰指
かえりやうら乃を川の水流と座をさうら山頂のも風押れ

し白河 山城 屯倉部

古今
この源からてれたる川にうらとる志の代々の名はこれに記

詞花一
と川乃其れ枝をえんさうせえねし花乃たすけり昔は

筑前

後撰
うらもは我らうらとる志は乃らうらむとる志は乃らむ

鏡百川 播磨 鏡百部

一万千丸
さうら海乃うらふ思ふる志は乃川をえむとる志は乃我志やま

広瀬河 大和

日又後古

ひろを川はくわう流さぬよ公のりあてまねておとらん

檜隈川

河内

八雲に抄五範五卿五代集詠枕河内河と仍當

四載之ー詠陰國河内或隈川之別名とて坐之

ふいのく海いのくまはゆとめてこ海まゝ之流を流す

七最上川

出羽 宿那

こくみ川のやまはくわう舟乃りるまはあつとこの月をり

廿瀬見ふ川

山城 志忠那

石川やせこのとら流をぬく月をるまゝとあてまねて鴨せの

芥河

日那

仁和清門流磯のし時乃例え芥河ふ初幸志河

とまよめる

はら乃山は幸たこり芥河乃ま世のあのみら流まをり

開小川

近江 流聖那

芳羽山をみらあひしあふ坂の雲れと川は流しとりのく 佐那

夕はまの玉舟を流しみて初と開のとら乃流を流しと 右 道那

開藤川

丹波 不破那

見の國雲の春川流まて君は流り人前代まてく

寸鈴麻川

伊勢 津原郡 延喜式 陸奥

金系九 ともなるまのたのむつりしきし川をふしなるをすけり ち系九下 少

河尼 六月毎の日跡少くもいかに川をせの流を教ふ 皇初流 少

新古 せう川少くもまはるは日おいて田の原は河をさき 古上 少

角田川 下総 一説は系通西國

百又新流古 まつら山をさきまはるは川をさき 并奉 法師

古今 冬川たつたふしなる都をわたり人ともわたり 業平

後河 一説大和

いづれもまはるは川をさき いづれもまはるは川をさき

十七河原

五十鈴河原 伊勢 度会郡

新古九 五十鈴河原 新古九

に丹生河原 大和

新古九 丹生河原 新古九

か賀原河原 山崎 志志郡

新古九 賀原河原 新古九

よ吉野河原 大和 吉野郡

いみじのうさね人のあふみんらね河原をさあぬもた

たむ久世河原 山城

むくせの清き川原に柳て折るいなりを悉くた也

龍田河原 大和 平群郡

夏衣ころころ乃柳け疎しふきつを次おけりぬゆき

お天河原 河内

かりくし七夕ほめお宿がらんあまのうらめ我んきふたり 兼平

さ佐保河原 大和 漆と郡

千やまを家の川原のま柳いよは長しとせふはれ 城上 御女

さ清河原

らはまのねれ深げけ楸りつほらあまのきさるり 若人

ゆう刺河原

ほろふもてゆきれうら乃塚本はあゝ道は人物をたか

ふと重河原 石見

ゆの夕まのうら乃旗の海を吹くうらめをむむ 佐保郡

す角田河原 下総

月けらふ夕まを物さるつ不あまのまみし河原を独りもゆん 齊 巻

十八岸

い 磐石代岩

紀伊 日守郡

いしつきのうし松くきほひん人ん出んて又もん人

磐石代岩

松くきしんいしつきのうし松くきほひん人ん出んて又もん人

大 龍田岸

大和 平群郡

後山橋

長風のみくしつきのうし松くきほひん人ん出んて又もん人

西園寺
おとけ

大 大江岩

摂津 西宮郡

このやちんはらうしつきのうし松くきほひん人ん出んて又もん人

長尾
はら

ふ 藤江岸

播磨

後山橋

葉のちえのうし松くきほひん人ん出んて又もん人

長尾
はら

さ 佐保河岩

大和

さへらりきうしつきのうし松くきほひん人ん出んて又もん人

さ 三室岸

平群郡

神のいこのむらじきうしつきのうし松くきほひん人ん出んて又もん人

高向
草春

あまらぬこむらじきうしつきのうし松くきほひん人ん出んて又もん人

花園右衛門
家小太郎

す 信吉岩

攝津 信吉郡

六 迫門 付揚田

な 難波門 折津

百と又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

鳴門 河波

日よ 万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

千歳八 万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

七 室門

新抄撰 法性のもろもろ 万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

玄明迫門 脩部

玉葉八 万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

八 宇鳴門

万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

九 大鳴門

ね撰十二 万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

万七 万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

万の又後松撰 万の又後松撰 万の又後松撰

薩戸迫門

薩摩

隼人のふるまはせしは雲井を深と知らず我人かふはるる高

中良門

紀伊 河内郡

物とれとけとて舟人うらをたえり東を三の巻のなる

し浪賀大橋田

近江 高野郡

は浪やあつたさしとて青人又あそめや雲人

吹らん人のけりおやあしとておのこあそめれ大さし

正一橋

板田橋

攝津

をうてりうさけ橋のふらぬ人あそめけり人

岩橋

大和

久米岩橋之又奥郡

岩とれれはけり地ぬりめりさかつこの神

は濱名橋

遠江

塩とるはけり人あそめけり初らん

白浪のまわりのみけりあそめけり尾尾

まみゆりあそめけりあそめけり秋の月

後信隆千九 竹ありしもえはるものうとたなとて一と衆とわけるまは橋人内旨

ほつ堀に橋

新橋橋十一 ありし橋もふりてえは橋の絶もたててみよとてあつて公橋絶大 助長

と常盤石橋

金剛金剛 久しぬ杉よまてありし杉をたててみよとてあつて公橋絶大 助長

十徳橋

陸奥

みらるれとるる橋よる橋の絶も人よひとてるるふ親隆千九

平小川橋

移送七 ばらるるまゝいふはとほしたらの河の橋のこゝある

総絶橋

陸奥

みらるるるとなるのうやまゝとて人よひとてあつて公橋絶大 助長

よは継橋

攝津

ほの浦のうのほき橋なりなりやうとてあつて公橋絶大 助長

な長柄橋

はの回るるうは橋よほくといふは我がまは行も人よひ橋絶大 助長

う字橋

山城

さしりる衣がまふふりや我がまは行も人よひの橋あり橋絶大 助長

日正
ちりもあうらね橋なるまじりて表と背のふきのひ

久米路橋 大和 葛城

千載十三
ひらきまきつとてぬ物持あけのれ若う 昔あひらり 師乳

後正隆二
かほきや花吹ちもま風はとたきとてぬらる若橋 西園寺 入方

信濃

拾遺十八
埋木の中ひとひしよの道とららね橋なるまじりて

八橋 淡路

あそらのや八橋の

冬に

あつよのあそらとまらる人なるゆていふまじりて

くみりね國のふとてあそらなるまじりて

北井川のほつあつらとてあそらなるまじりて

とてそ本のひあつらとてあそらなるまじりて

あつらとてあそらとてあそらなるまじりて

百今九
ひらきまきつとてぬ物持あけのれ若う 昔あひらり 業平

後正隆二
かほきや花吹ちもま風はとたきとてぬらる若橋

真間継橋 下総

百廿四
あのをとせはた入物ちひらきまきつとてぬらる若橋

六二 淀

よ 淀

山城 乙訓郡

ゆあふらうらやのい水るあまはは津祿をのいふあつあき
乃ありえぬまはいさう保るるははせうさくしんあま 高田 実

大高津淀

河内 菟原郡

ひりふはたうせのまはみるまを能あひあふあつあき 高田 実
いあさせうたうせれらうのふし枕うけあふうはひいあひん 高田 実

な七瀬淀

大和 高市郡

花さ川七瀬のうらめまじきものかあまえんしんはくそけいあ 百七

肥前 松浦郡

まう川を舟をいさうまじきものかあまえんしんはくそけいあ 百七

む六田淀

大和 吉野郡

あまのよまをむらけはまふそけいしんはくそけいあ 百七
たをさしむらけはまふそけいしんはくそけいあ 新古 権中郡 乙訓

木大川淀

河内 田原郡

いあふらうらやのい水るあまはは津祿をのいふあつあき 百

大淀

伊豫

新古
松平ののみをきいけ成ぬん津入いさ湯の堆松源 急津

五三 測

稲測

幸とあり深といふあふはけりるつらふ瀬のまを 具民

か 神南脩測 大和 平祥部

乃志とゆえとて神の測にあうて測さうらん 大伴

高瀬

戸難測 山城 葛野郡

折めとも四方の紅葉をぬてとせそ秋の海人皇宮大 又云安

いふて若るもみぬ夕暮ふとせの枝あらてらん 赤松 親隆

や 款冬測 宇治郡

秋風山吹のせけひきよすあ海雲のあかりよあけは

大五 池

い 磐石余池 大和 十守部

もほるふいさ池のゆら鴨とくふのこみてや雲かきぬらん 大伴 白鳥

後遠十二
千代を以て其の池のうらむるに所を以てせむるをいふ
後人
ふ志

甘田池
攝津 八郡部

はの國の甘田の池なりといふはまの池なりといふ也
曰

は原池

は原池の池なりといふは原の池なりといふ也
右
若者

鳥籠池

鳥籠池の池なりといふは鳥の籠なりといふ也

小崎池
長尾 河内郡

小崎池の池なりといふは小崎の池なりといふ也

か輕池

大和 高市郡

か輕池の池なりといふはか輕の池なりといふ也
記号子

勝間田池
下総

八雲傳抄并花葉御代集三つ枕下総國と
仍南國蘇之信備抄長作之は國有勝間
田部其不し可也

か川まは池と稱する池なりといふはか川の池なりといふ也

い事らう境らの建てる池なりといふはい事らの池なりといふ也
二条老守
大店ま肥茶

將道池

海の池のまへとまゝぬくまゝ人のいふなほらるる池

河をたまたま存る部らるる

二 泉陽池

ひら行基菩薩に於てあり十二乃池とあり信之

北より寺と建立し醫王菩薩之像をあり

とんま川あり此泉陽寺とあり

信部

ひらめとありまゝしひらめなる池とあり

信部
七井井

信部

まやの池ありあまのつらき神門とあり東のつらき

信部
信部

信部

うら鳥のうら神の座とあり人けらやまの池あり

信部
信部

三 猿津池

大和 信部

信部

まゝもあつとありまゝしひらめなる池とあり

四 全救池

信部

まゝもあつとありまゝしひらめなる池とあり

五 耳子池

大和 信部

みまのいもつらやめわきとあり

六 彦津池

山城

ひらまの池にけの柳ありみまのいもつらやめわきとあり

いもつらやめわきとあり月乃とありひらまのいもつらやめわきとあり

七 菅田池

大和 信部

千載 魚津のこまのこの池。みくもそをるておぬ人名てお別れ 持世院 公海

其堤

横野堤 和泉

續百 瀬多のこまの池。風さそそりてゆくと馬鳴く 右 光俊

其沼

伴香保沼 上野 若羊馬部

百十古 見津者るいふのぬまはうらるまのふひんを挿りしめりん

石垣沼

邑樂部

日 吾柳のいそぬぬみふらふおぬやれらんあふふさ

か可保沼

全葉一 わらうらぬやの池のこころもさそれはまうさだはけふそ歌草

大玉江沼

折津 嶋部

みこらふふさ魚のうまやまえぬんむ江の池とあるま物 法備

つ筑摩江沼

近江 沼田部

は括工 わふこふらあそいふやうみくらゆらふらぬぬの池 道伝

わ淡路沼

攝津 行部

新古
ふらうらうらめ井乃ま残枯ひあやん心らうをまきしつる也 上五回院

た玉井

山城 相宗郡

十載
冬らまは拙くふんらまぬまわそ流ま玉の井れま 前成

玉井

せ江

そくしふあをせう様てしよふうま玉井のみれ松の下 長谷川

田中井戸

紀伊

惟る末品より

後古
はまらう苗代まふひきて田中井戸の山吹のそ風 後成院 堀川

つ堤井

万石頃千
ましく福乃とゆめうめれはけし井の水をたすんをいひん

山井

近江

一石當回 一石は陽
之末坊門 山家権西

むまふのまらふおらう山の井乃あそん今別りり まき

あしやじうあし井の井とらりるもを朽てそま 後人 山家

法奥

万石頃今
あさふらふとて移り山の井れ流くんをわらふまのな

ま真間井

下総 葛飾郡

かりまのま井井みまはまるとまをさくまてこりそ

増井

丹波 韋田郡

魂
あさふらふ井乃思まはらふまをさくまてこりそ 後成

松井

備中

新古
こけいなる松井の水と流るる山に泉ありとありあせひみえなる噴泉

あぶ鳥井

山城

備中赤津三

玉葉
ひらねと心ひ物とあり井乃みとくつれいとも福地ん
推明
新

縣井戸

一条山常田院西角
又号井戸名
山事見大書

さね良志井

紀伊

みくほをけるふむらり井の池をがうんろこふらねり

湯津る御井 大和

いふよふらうらひ花つるまはと井のうらうら湯ありつ
弓削
白

みこ吉野山井

吉野郡

みくほ山井の川を流るる花の下をよきとみん
春後

三井

玉葉
あつむきは心のうと花をみけらつこめのとらうらうら月乳
古大傳
透珠

水

石清水

山城 久世郡 八幡宮

は務
あつむらわさるかたんいさうま神のふねとらうらうら
諸基
は務

^{同花}青み多る水の氷のかくく神うつはぶ部を幸とよむる 板橋

わ井も水 山城 相馬郡

^{新古}山ろろのおそる玉まてゆほてたのうらひるませりなり 後人

の野中法衣 播磨 石南郡

^{古今}心あふるの野中法衣なり 古今

れ朧清水 山城 石南郡

^長みくろ居しおろろなる志も庭をこそ 古今

^後八重藤おけい下は結ぶてふれり 古今

み御河水 宮中 見十九巻

世閑清水 近江流聖郡

^全初く弱乃投るをわふみける 古今

^十あはるていりあはるの閑水 古今

^{古今}あはるていりあはるの閑水 古今

右弁石清水と書て別載之流抄如く同書也



